

全面教育学リニューアルスタート！

研究学会立ち上げを目指して

あれはいつのことだったでしょうか。新宿の朝日カルチャーセンターの一室で庄司和晃先生が満場を沸かせながら、全面教育学の熱弁をふるっていたのは。もう30年になるでしょうか。あの熱気が昨日のように思い出されます。

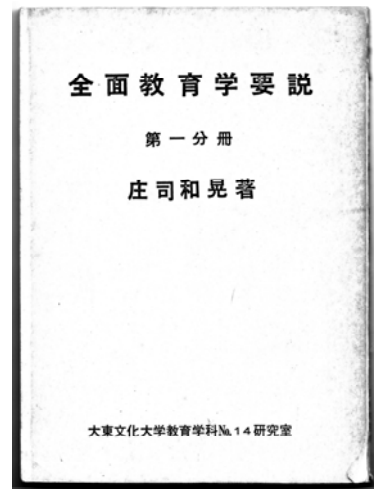
それから正式スタートした全面教育学研究会は、成城学園をベースに様々な人の輪を作り、「コトワザ教育」を軸に「死の教育」「言葉遊び」など多方面の分野に場を広げながら主に「教育実験」という表現手段をもって展開してきました。

当時のメンバーの多くが教育現場から引退するシーンがこここのところ増え、「全面教育学研究会」も一昨年の25周年と銘打ったイベントのあと、年に数回と開店休業に近い状態でした。

ここにあらためて会員諸氏の発奮を得て、再スタートを期したいと思います。

フィールドも学校教育にこだわらずに展開していきます。この世の様々な出来事を全面教育学の認識論で見つめていく作業は、混沌とした現在こそ望まれるので

はないかと思います。一昨年行ったイベント行事も今年はまだ一度立ち上げたいという案もあります。皆ざんげひご参集下さい。



1979年(昭和54年)発行の全面教育学のテキスト

2/13 今年初めのさぶらふの会

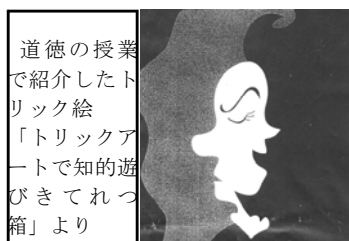
2月13日、お茶の水・アミで「さぶらふの会」が行われました。参加者は、小田、徳永のほか若い小学校の先生である榎本、山崎、渡辺夫妻、志村、のメンバ

ーでした。(風邪等でふだんよりも少なかったのが残念)徳永が、昨年行った中学校での新人教員向けの道徳に授業を若い先生方に紹介し、質疑応答をしました。

授業の内容は、次ページで紹介したようなトリック絵を提示した後、弁証法的な思考をポジティブな思考

に展開していくという認識論に立ったものでした。しかしその展開の中に三段階連関理論の「のぼり」「おり」の思考展開があり、従来にない道徳の授業の紹介になったようです。この会では、道徳はどうあるべきかも含めて様々な意見交換ができました。

小田さんの道徳は基本的に授業になじまない、という論点を踏まえ、徳永も必ずしも一回の授業で子ども



たちの変容があるとは思えない、という確認から道徳とどのようにつきあったらいいのかという話になりました。

最近のNHK教育の道徳番組の中に「時々まよまよ」というのがあるらしいのですが、これは今までの番組と違い結論めいた展開をカットしているとのことでした。そこから、視聴者である子どもたちがどう考えるかということを促すらしいのですが、道徳の展開にも様々な工夫が込められ時代の変化を感じます。

参加者の志村さんは、TVの視聴も時にはリラックスしていいのではないかとひそかに思っていました。今日はそのような話もありホットしました、とっていました。

またケンカやイジメなどの子どもの生活指導で認識論を使っているという中学校での徳永の提案には様々な質問や意見が出て、混沌としている現場の雰囲気伝わってきました。

今回は、4月の第2週の予定です。なお小田さん立川での『遠野物語』の講演があるため変更があるかもしれません。

2 / 20 世相史研 柳田國男の世相論

柳田國男の著作から世相を見つめる作業を行っている世相史研究会は、昨年の11月から『明治大正史世相編』の「生産と商業」に入っています。

ここでは明治・大正時代における農業問題から商業や流通の問題が展開されていますが、現代の経済問題を考えるうえでも大いに考えさせられるホットなものです。また柳田の農業政策論や経済政策論にも通じるものとなっています。

3月は、本拠地をお茶の水に移して4節「生産過剰」について読み進めていきます。3月20日の予定です。是非おいで下さい。

2010年版
「全面研年報」
まもなく完成

毎年の年報の原稿は皆さん出されたでしょうか。締め切りは2月上旬だったようですが。向井さんのほうにわたった原稿は、例年のようにすばらしい装丁で3月上旬には刷り上がる予定です。合評はその時に行います。

ちなみに今回の執筆参加者は12人、150ページにも及ぶ厚さです。これも今までにないことです。皆さん乞うご期待を。

柳田国男社会科 中学校版は どこにある

今、柳田國男の幻の教科書原稿「中学校社会科」(検定不合格コピー原稿)を探す作業が行われています。

実業之日本社から発刊されたのは昭和29年ですが、そのまま原稿のコピーが散逸してしまったようです。柳田の社会科教育の系統を見る上で貴重な資料のほず。日の目を見ることがあれば論説でもたびたび書かれている「選挙論」等注目をしたいところです。

全面教育学研究会 3月定例会のお知らせ

日時：3月13日(土)

14:00～16:30

場所：成城学園 庄司和晃先生宅

内容：

- ・全面教育学年報の合評
- ・動物行動学者の日高敏隆氏を悼んで
- ・「コトワザと教育」(『国文学』)所収の原稿紹介
- ・全面研、今後の展開について

注1：当日は成城学園駅前に13:30にお集まり下さい。

注2：遅れる場合は成城学園駅北口より「ゆうあいハイツ」(祖師谷6丁目三叉路バス停前)までタクシー、後は電話連絡してください。

.....

全面教育学会を立ち上げよう！

一昨年の12月に行われた「全面教育学25周年記念集会」から、はや14ヶ月が経ちました。あの日の熱気の中で、小田さんが「全面教育学会」を立ち上げようと熱弁をふるったことを覚えているでしょうか。

NPO法人化するという小田さんの構想はまだ具体化されていませんが、東京を中心とする若い小学校教師達の中や、植垣さんの関係の看護教育現場でも浸透しつつあるようです。

認識論やコトワザ教育は、日常のちよっ

とした場面での応用が利くだけでなく、無意識の中に誰でも援用していることではないかと思います。それをあえて意識化する、あるいは自分のフィールドで使ってみると、ということが今こそ重要ではないかと思うのです。

かく言う私も、中学校という現場の中で特に問題を起こした生徒に話す時に「認識論」は有効だと思っています。このような場面での生徒指導は、感情的になり一方的なものになりやすいものですが、一つ一つの具体的な事実の確認と冷静な分析と対話の中で相手が少しでも心をひろげることができれば「抽象認識」という大きな問題解決にたどり着くことができるのです。

このように見ると日々のニュースなどの出来事や過去の事実を三段階連関連関理論に当てはめて見るという作業は面白いのではないのでしょうか。そこに全面教育学の一つの可能性も見られるような気がしています。「全面教育学会」考えてみませんか。

(徳永)

庄司先生講演会のお知らせ

先日、永野さんに会った尾崎さんから庄司先生の講演の話を知りましたので紹介します。

庄司和晃氏講演会

- ◆ 3月27日(土)
- ◆ 14:00～16:00
- ◆ 明治大学駿河台校舎
- ◆ テーマ：未定(コトワザに関する内容)
- ◆ 主催：日本ことわざ文化学会
- ◆ 連絡先
〒168-8555 杉並区永福 1-9-1
明治大学和泉校舎 山口政信研究室
tel：03-5300-1243

●本紙は、全面研事務局担当の徳永忠雄が編集しました。(連絡先 090-8721-5517)

理想を現場で生かす術をどう磨くか

生の直接体験にせよ、読書などの間接体験にせよ、私は自分の心に残ったそれらの経験を意識的に記述しながら浮き立たせ、その意味するところを探ってみようという行為を、前から、機会を掴んでは何とか続けてきております。

いわば教育的自叙伝の仕事です。

それは特に〈印象教育〉とよぶ中の大きい柱の一つにしております。

今ではそのようにやる行為が習い性のごとくなっている形です。そうした経験なり体験なりは、何よりも自前の結晶であり、またおのれ自身の営為を示す宝物だと思っているからです。…

今しがた、〈印象教育〉という名を出しましたが、これには次の三つを考えております。

私達を形成していくものには印象に残るものあれば、残らないものあります。せめて、印象に残った事柄を尊重していきたいという立場から、一つには、さつきふれたような自身の実地体験や読書体験などの中の印象的なものを出来るだけ掘り起こして、その価値を発見すること。二つには、人様に、意識的ないしは積極的にこちらから強烈な印象(驚異)を与えることによって、人間の変革に寄与しうる面の存することを明らかにすること。そして三つには、強烈とまではいかなくとも、楽しい思い出なり、快い思い出ともなるであろうと想定しておこなう諸々の教育の手だてに着目して、その意味を求めてみること。…

私は昭和23年4月から小学校の教職にたずさわりましたが、もう当初から教育技術の重要さに気づいておったのです。私の好きな教育的理念を熱っぽく胸底に持っていても、それだけでは目の前の教育現実をどうすることもできなかつたからです。理念や理想のみでは現場の仕事において手も足も出なかつたからです。民主主義教育などを、したり顔で他人様と大議論は出来ても授業実践の場で一ミリさえも前進させ得なかつたからです。

これでは駄目だ、熱心さだけではどうにもならぬ、願望なり理想なりだけでも動きは取れぬ、理念を具体化する力をしっかりと手にしなければならぬ、つまりは両面だ、理念的なものも、技術的なものもである、この両面作戦でないとおのれの納得のいく教育は不可能だ……と合点していたのです。

(有名私立学園の著名な先生のカリキュラム重視、テクニクは二の次だという話の後)だから、当時の私が教育技術に関するものを文章化する際には、「小さな教育覚書」とか「教えることのコマかい話」とか、そういう題目を掲げたものです。すなわち、「小さな」とか「コマかい話」とか、そういう言葉を使ったものでした。…

のちに、その後ろめたさをふっ切つたのは、柳田社会科と仮説実験授業とを教育技術論的に解決して、その成立の基礎固めをした実践的体験によってです。

「庄司和晃著作集5 教育者としての青春」(明治図書1988)前書きより抜粋

